



びすけっと

231号—2022年3月—

埼玉県立小児医療センター

血液・腫瘍科

親の会 びすけっと

もっとみなさんつながれるように…

Instagram始めました！

https://www.instagram.com/biscuit_oyanokai/



第2回小児がん患者家族セミナー「先輩たちの話を聞こう～AYA世代座談会～」

日時 3月26日(土) 13:30～15:00

開催方法 ZOOM (WEB) 参加費は無料

患者家族セミナー→



※ 詳しくは、びすけっとのInstagram、埼玉県立小児医療センターホームページをご覧ください。

第63回日本小児血液・がん学会学術集会、第19回日本小児がん看護学会学術集会、第26回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

標記の大会が2021年11月にオンラインで開催されました。視聴した内容について、一部感想等をお伝えします。(柳戸)

特別講演ではAYA世代患者への支援についてのお話がありました。話の中で印象的だったのが、同世代の患者友達がいることでポジティブになれるということでした。そのためにSNSを活用して医療機関と患者、または患者同士が繋がることできるようにしたそうです。(AYA研のLINE公式アカウント<https://page.line.me/?accountId=ayaken>) このLINEアカウントからAYA世代に必要な情報を得ることができます。AYA世代がん患者が受診している診療科が様々なことや、抱えている問題の複雑さなどから、その支援のためには組織を超えたネットワークが必要と考え実践している例も話され、とても心強く思いました。

会長講演では、小児がん治療の歩みと新たな治療への希望、多職種で闘病を支えてくれていることを知り、さらに晩期合併症のない治療を目指していらっしゃることに胸が熱くなる想いがしました。

看護教育講演では教育保障についてのお話がありました。病気療養児に対する遠隔教育によって一定の要件を満たした場合、高等学校や特別支援学校高等部の単位が認定できることや、病気療養の小・中学生に同時双方向授業配信を行った場合出席扱いとできることなどは、闘病する上でとても励みになることだと思いました。病弱特別支援学校の教育内容の一つに自己管理能力を育てるということがありました。晩期合併症が問題となる中、病気を経験した全ての子どもにとって大切なことだと思いました。

分子標的薬のお話では、これまでの抗がん剤治療は細胞が増殖する仕組みに働きかけてがん細胞を攻撃する治療だったのに対して、分子標的薬は異常な分子の影響を抑える治療であるため晩期合併症を減らすことが期待されること、まだ小児に使える薬が少ないので使える薬を増やせるような取り組みをしていることなど、これからの治療に希望が持てるお話でした。

三団体合同公開シンポジウムは「小児・AYA世代がん患者の教育支援を考える」というテーマで開催されました。病弱教育の現状としては病気療養中という制限がある中でもVRやWeb会議システム等も活用して様々な体験ができるように工夫されていること、出席や単位修得の扱いに関する要件の緩和など実態に即した対応が可能になったこと、子どもに関わる人たちで情報を共有するためのツールや社会復帰後に直面する様々な困難に向き合えることができるようにするためのツールを作成していること、高校生自信が学びたいと声を上げて病気療養中の高校教育が広がってきた話、学校・病院・本人・友達の協力と努力で病室での学習を実現したこと、医師・教員・親の前向きな言葉がけで小児がんの経験を前向きに捉えることができたことなど、病気になっても多くの人の支援によって学ぶことを続けられるということは、その後の生き方にも関わってくるととても大切なことだと思いました。

AYA研のLINE公式
アカウント→



次回のびすけっとは、4/12(火) 11:00～

相談室B(2F 総合受付奥)

びすけっと連絡先：代表 柳戸 民子

〒350-2224 鶴ヶ島市町屋112-5

TEL 049-271-4708 (留守電)

e-mail yanagido@t.zaq.jp

※びすけっとの参加のためだけに病院に来られた場合、

- ・駐車料金は一般料金になりますので、病院外の駐車場をご利用することをおすすめします。
- ・入館時の健康チェックシートは、外来・面会用ではなく、職員専用通路内にある来客・業者用をご使用ください。

※変更の場合があるため、
来る前にインスタや
LINEで確認してね。

柳戸LINE、QRコード
ラインでのご連絡もOK!

